

第 16 回通常総会

2010 年 3 月 10 日 (水)

言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

第 16 回通常総会次第

日時 2010 年 3 月 10 日(水) 14:30～15:20

会場 東京大学 本郷キャンパス 赤門総合研究棟 6 番教室

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 2009 年度優秀論文賞, 第 15 回年次大会優秀発表賞の表彰
4. 議長選出
5. 2009 年度事業報告
6. 2009 年度決算報告、監査報告
7. 2010 年度事業計画提案
8. 2010 年度予算計画提案
9. 2010 年度評議員構成
10. 2010 年度役員構成
11. その他
 - 学会誌の査読方式の変更
(変更案) 投稿論文に対し、編集委員長が担当編集委員を決定し、担当編集委員が査読者を 2 名割り当てる。2 名の査読者の間で、判定が分かれた場合には、編集委員会で採否の最終判定を行う。
12. 閉会

以上

2009年度事業報告

1. 概要

言語処理学会の主要活動として論文誌「自然言語処理」の発行および年次大会の開催を計画通りに進めました。「自然言語処理」に関しては、通常号と共に特集号を企画・発行しました。このうち、論文誌「自然言語処理」において、掲載論文の質を保証しつつ査読時間を短縮するかの問題については、以前から議論してきましたが、今までの経験に基づき、査読の方法を変更することになりました。2010年1月以降に受理された論文は査読委員2名による平行査読となり、判定が分かれたときの最終判定は、編集委員会が行うことになりました。

第15回年次大会は、2009年3月2日（月）から5日（木）まで、鳥取大学湖山キャンパスで開催しました。初日のチュートリアルの参加者は216人、本会議の参加者は、501名でした。

言語処理学会の15周年記念事業として2006年度に企画した「言語処理学事典」の出版については、石崎俊前会長を中心に編集され、出版にいたりました。なお、言語処理学会の会員には割引サービスが行われました。該当者は、2010年2月23日時点で136名です。

若手研究者への支援活動として、シンポジウムの主催と学生の国際会議への参加支援を行いました。シンポジウムは、「NLP若手の会第4回シンポジウム」と題して、9/30-10/1に京都で開催しました。また、2006年度から、長尾先生のご寄付によるThe AFNLP-Nagao Fundを運用していますが、今年度は、シンガポールで行われたIJC-NLPのStudent Sessionの議長からの依頼で、今回は5名に対しての部分補助と6名に対しての全額補助をACLと長尾ファンドで折半しました。

また、以下の会議に対して協賛を行いました。

- 1) NICT主催 「ユニバーサルコミュニケーションに関する国際会議 ISUC」
- 2) 京都大学情報科学研究科 開催「第3回ロボット聴覚システムHARK講習会」
- 3) ウェブ学会

2. 会員現況（2009年12月21日現在、増減は2008年12月19日との比較）

正会員	773 (-18) 名		
学生会員	140 (0) 名		
賛助会員	14 (-1) 組織	(17口 (0))	
定期購読会員	42 (-7) 組織	(49口 (-6))	

3. 会誌の発行

- 16巻1号（2009年1月発行、通巻69号）
巻頭言，論文5編，会告
- 16巻2号（2009年4月発行、通巻70号）
巻頭言，論文3編，会告
- 16巻3号（2009年7月発行、通巻71号）
巻頭言，論文4編，会告
- 16巻4号（2009年10月発行、通巻72号）

巻頭言, 論文4編, 技術資料1編, 会告

- 16巻5号(2009年10月発行, 通巻73号)
巻頭言, 追悼, 論文4編, 会告

4. 第15回年次大会の開催

- ◇ 開催日: 鳥取大学(鳥取キャンパス 共通教育棟) 2008年3月2日(月)~3月5日(木)
- ◇ 会場: 鳥取大学鳥取キャンパス(共通教育棟) (鳥取県鳥取市湖山町南4-101)
- ◇ プログラム

[チュートリアル講演] (4件) 3月2日(月)

- 「ウェブサービスを利用した自然言語処理研究」
山下 達雄 氏 (Yahoo! JAPAN 研究所 R&D)
- 「生成文法の考え方と検証の方法」
上山 あゆみ 氏 (九州大学)
- 「情報可視化の基礎」
松下 光範 氏 (関西大学)
- 「自然言語処理のための知識獲得」
関根 聡 氏 (ニューヨーク大学)

[招待講演] (2件) 3月4日(水)

- 「意識と言語と情報」
西垣 通 氏 (東京大学大学院情報学環)
- 「日本における『裁判と言語』」
川嶋 四郎 氏 (同志社大学法学部・大学院法学研究科)

[一般発表 講演発表] 3月3日(火)~5日(木) 発表件数 140件

[一般発表 ポスター発表] 3月3日(火)~5日(木) 発表件数 95件

	事前予約	当日参加	合計	
本大会参加者数	433	68	501	(-234)
チュートリアル	191	25	261	(-24)

(カッコ内は昨年との比較)

(1) チュートリアル

今回はすべての講演を聞けるよう1トラックに戻し、またできるだけ幅広い話題を提供できるよう、1講演を1時間30分にして4講演としました。この結果、261名という多数の参加を得ることができました。

(2) プログラム冊子

前回、前々回同様、論文集のCD-ROM化と、製本コストの低減、また、広告掲載、企業協賛をお願いすることによる印刷費の補填を行った結果、健全な単独収支を実現しました。

(3) テーマセッション

文系と理系の枠を越えた議論を目的として11回大会から設けられています。このような目的で設定できるテーマは限られていることから、回を追うごとにテーマの設定が難しくなってきました。今回は、1つのテーマを異分野との議論・交流を考えた「統語論と意味論のインタラクション、文学・文化の言語研究および言語処理研究」としました。もう1つは「実社会に求められる自然言語処理」としました。

(4) 招待講演、特別講演

招待講演は、プログラム委員会で候補を出した結果、西垣通氏（東京大学大学院情報学環）に「意識と言語と情報」という題目で、また、川嶋四郎氏（同志社大学法学部・大学院法学研究科）に「日本における『裁判と言語』」という題目で、おこなわれました。

(5) ワークショップ

例年通り、Call for workshopsをニュースレターで流してテーマ募集を行いました。この結果、今年は応募がなく、開催はおこないませんでした。

◇ 年次大会優秀発表賞

言語処理学会年次大会優秀発表賞は、年次大会において、論文の内容およびプレゼンテーションに優れたものと認められた発表論文に与えられる賞です。また、優秀発表賞のうち特に優れたものがあれば、最優秀発表賞として選定することが第11回からとりいれられました。

第15回年次大会プログラム委員会は、選考委員会での審議に基づき、次に示す2件の最優秀発表賞ならびに3件の優秀発表賞と3件の若手奨励賞を選定しました。

最優秀発表賞（2件）

P2-16 ウェブを用いた幼児言語発達研究：大規模縦断データ収集の試み

○小林哲生，永田昌明（NTT）

D4-5 グラフカーネルに基づく非分ち書き文からの意味的語彙カテゴリの抽出

○萩原正人，小川泰弘，外山勝彦（名大）

優秀発表賞（3件）

B1-7 施設配置問題による文書要約のモデル化

○高村大也，奥村学（東工大）

B3-8 ロジスティック回帰モデルを用いたラベル付文書クラスタリング

○岡野原大輔（東大），辻井潤一（東大/Manchester大/NaCTeM）

A3-2 自動意味役割付与のための役割集合の設計

○松林優一郎（東大），辻井潤一（東大/Manchester大/NaCTeM）

若手奨励賞 (3件)

- D5-1 日報を対象とした障害予知
柿元芳文 (長岡技科大)
- D5-5 関係名詞らしさを用いた固有表現間の関係同定
平野徹 (NTT)
- A5-6 言語資源の検索における用途情報の利用
小澤俊介 (名大)

◇ まとめ

第11回大会以降、多少の変動はあるものの本会議の参加者数は増加を続けていました。しかし、今年度、参加者は3割減少しました。特に当日参加者は6割減少しました(東京大学第14回年次大会は、本会議参加者735名、内訳は事前申し込み559、当日申し込み176)。また、チュートリアルは1トラックのみ開催し、ワークショップは開催しませんでした。地方開催であったこともあるが、リーマン・ショックの影響があったのであると考えています。しかし、個々の発表は盛況でした。特にポスター発表と懇親会は非常に盛況でした。

会計面では、財団法人とっとりコンベンションビューローより、多額の助成金を頂きました。そのため、事前登録における参加料や懇親会費を、前年度の大会より低額にして、かつ参加者が減少したにも関わらず、赤字決算にはなりません。なお、言語処理学会の黒字収支を会員に還元するため、来年以降も、大会参加費、特に事前申し込みの場合の参加費の減額を行なっていく予定です。

また、今回、始めて企業展示をおこないました。参加された企業の方に聞いたところ、どのような人がどのように自社の製品を利用しているのか直接聞いて良かったとのことでした。また、前回から賛助会員となって下さっている組織の方を対象に非会員の参加費を会員価格に割引きするという施策を実施しています。これらの制度は、かなり好評だったようです。

5. ニュースレターの発行

2009年は、ニュースレターVol.16 No.1~No.4の4号を発行し、学会運営、大会案内、会議報告など会員への各種情報の提供を行いました。これらのバックナンバーは、学会ホームページでも公開しております。

6. 会議

◇理事会

計4回の理事会を開催し、入退会会員の承認、新任評議員の承認、事業計画、予算、論文賞選考、学会誌査読方式、年次大会の方針、年次大会優秀発表賞、関連学会等への協賛等について審議し決定しました。また、会費納入や学会誌作成、ニュースレター発行等の学会運営についても議論しました。

理事会開催:

- 第72回 (2009年3月4日、鳥取大学(鳥取キャンパス))
- 第73回 (2009年6月30日、慶応義塾大学(三田キャンパス))
- 第74回 (2009年9月28日、慶応義塾大学(三田キャンパス))
- 第75回 (2009年12月21日、慶応義塾大学(三田キャンパス))

◇編集委員会

2009年中に4回の編集委員会を開催し、自然言語処理に掲載する論文の審議をしました。2006年度に電子査読システム RACCO のサービスが停止したため電子メールを用いて迅速な査読に努めています。また、2008年度に検討いたしておりました、査読期限の厳守を目指し査読者にインセンティブを与える施策を開始いたしました。具体的には、2009年1月以降に投稿された論文を対象に、1ヶ月の査読期限を厳守した査読者には、5000円分の図書カードをお渡ししました。これにより査読の迅速化に多大なる効果がありました。

編集委員会開催：

第67回（2009年1月20日 産総研）

第68回（2009年4月30日 産総研）

第69回（2009年7月17日 産総研）

第70回（2009年10月28日 産総研）

英文論文アーカイブ(IMT)への論文掲載：

情報関連学会による国際的な電子ジャーナルとしてのIMT (Information and Media Technologies) に、第4巻1～4号掲載の英語論文4件を提供することとしました。

2009年度優秀論文賞の選考：

論文賞は、採録論文30件程度につき1件を目途に授与することになっています（平成18年1月の編集委員会で提案し、理事会で承認）。これに基づき、2009年に出版された自然言語処理16巻1号から5号に掲載された論文20件から1件を推薦することを目標として、以下の手続きで候補論文の選考を行いました。

- (1) 第1次選考として、期間中の各号に掲載された論文のうち、査読点数が5点満点で4点以上の論文9件を対象に、1論文あたり3名の編集委員が読み、10点満点で採点しました。
- (2) その結果、高得点を得た上位4件の論文を第2次候補論文とし、編集委員全員が1名の持ち票を一票として投票しました。
- (3) その最多数得票（過半数）の論文1件について審議し、これを論文賞候補に推薦することに決しました。

これらの結果以下の論文に決まりました。

タイトル：「Wikipedia の記事構造からの上位下位関係抽出」

著者：隅田飛鳥，吉永直樹，鳥澤健太郎

発行号頁：Vol.16 No.3 pp.3-24

以上

2010年度事業計画

1. 運営・活動方針

言語処理学会の主要な活動として、論文誌「自然言語処理」を定期的に発行するほか、特集号の企画・発行を行い、年次大会を開催します。また、これらの論文誌や年次大会で発表された研究の内容を広く内外に流通させるとともに、会員の自然言語処理の研究発表を支援することも本学会の重要な役割と考え、活動を進めて参ります。

研究発表を支援する活動としては、昨年同様、若手の会が企画したシンポジウムの支援を行います。特に、国際交流に関しては、いままで、特にアジア・太平洋地域の関連学会の連合組織 AFNLP の活動への協力を行ってきました。今年度も予算の許す範囲で、このような研究活動の支援を継続して実施します。

当学会では、収益の拡大と節約を旨とする皆様のご努力により、活動資金に余裕が生まれてきました。今後は、会費の引き下げ、理事会や編集委員会などの会議での旅費や弁当の支給などについても検討し、収支のバランスのとれた学会運営を目指していく予定です。

2. 会誌の発行

通常号のほか、特集号を企画しています。また、Journal@rchive を通じた電子アーカイブ化を進めます。

◇第 17 巻第 1 号(2010 年 1 月 10 日発行、通巻 74 号)

◇第 17 巻第 2 号(2010 年 4 月 10 日発行予定、通巻 75 号)

◇第 17 巻第 3 号(2010 年 4 月 10 日発行予定、通巻 76 号)

「Empirical Methods for Asian Language Processing」特集号

◇第 17 巻第 4 号(2010 年 7 月 10 日発行予定、通巻 77 号)

◇第 17 巻第 5 号(2010 年 10 月 10 日発行予定、通巻 78 号)

次の特集号は“Empirical Methods for Asian Language Processing “の予定です。2008 年 12 月にベトナムで行われた 10th Pacific Rim International Conference on Artificial Intelligence (PRICAI 2008) の同名の併設ワークショップでの発表論文からの投稿を期待して、現段階では、編集作業が始まっています。

3. 第 16 回年次大会の開催

日時： 2010 年 3 月 8 日(月)～3 月 11 日(木)

会場： 東京大学 本郷キャンパス 3 月 8 日(月) チュートリアル (9:00～18:00)

3 月 9 日(火) 本会議 第 1 日 (9:30～18:00)

3 月 10 日(水) 本会議 第 2 日 (9:00～18:00)

招待講演 (13:00～16:00)

総会 (14:30～15:30)

懇親会 (18:30～21:00)

3 月 11 日(木) 本会議 第 3 日 (9:00～18:00)

4. ニュースレターの発行

原則として、前年と同様の回数と内容で発行する計画で、学会メーリングリストを通じて電子配送します。これらは学会ホームページにバックナンバーとして公開します。また、理事会で審議された事項の公開をおこないます。

5. 会議

◇総会

通常総会を 2010 年 3 月の年次大会で開催します。

◇理事会

昨年度同様に開催します。予算のゆとりを会員に還元する施策・事業、論文等の電子的公開、年次大会の開催、他学会との連携などについて審議します。

◇評議員会

総会に合わせて 2010 年度第 1 回会合を開催します。学会全体の活動の活性化に向けた施策、関連する研究分野との交流の促進などについて議論します。

◇編集委員会

編集委員会を会誌の発行に合わせて開催し、迅速かつ充実した論文審査を目指して、より良い査読の方法を検討します。管理の再電子化についても引き続き検討します。2 名の査読者による並列査読をおこなっていきます。

6. 2010 年度評議員構成

2008－2011 年度評議員		2010－2013 年度評議員	
天野 真家	湘南工科大	神門 典子	国立情報学研究所 情報社会相関研究系
池田 尚志	岐阜大	安藤 真一	NEC 共通基盤ソフトウェア 研究所
梅村 恭司	豊橋技科大	村田 真樹	鳥取大学
大塚 裕子	計量計画研	大野 将樹	電気通信大学
落谷 亮	富士通	山本 幹雄	筑波大学
小原 京子	慶大	福本 淳一	立命館大学
北村 美穂子	沖電気	二宮 崇	東大・情報基盤センター
竹内 孔一	岡山大	木村 泰知	小樽商科大学
田中 久美子	東大	佐々木 裕	豊田工業大学 工学部 先端 工学基礎学科
徳永 健伸	東京工業大学	藤井 敦	東京工業大学
新田 義彦	日大	富浦 洋一	九州大学大学院システム情 報科学研究院情報学部門
丹羽 芳樹	日立	梶井 文人	北見工業大学 工学部 情報 システム工学科
林 良彦	大阪大	坂原 茂	東京大学
平川 秀樹	東芝	荻野 紫穂	日本アイ・ビー・エム株式 会社東京基礎研究所
フランス ホント	NICT	秋葉 泰弘	NTT コミュニケーション科 学基礎研究所
山本 和英	長岡技科大	神崎 享子	情報通信研究機構
		佐良木 昌	日本大学
		柴田 勝征	福岡大学
		増市 博	富士ゼロックス株式会社 研究技術開発本部
計 16 名		計 19 名	

7. 2010 年度役員構成

役員名	氏名	所属
会長	橋田 浩一	産総研
副会長(総編集長兼務)	中岩 浩巳	NTT
理事(編集委員長)	隅田 英一郎	NICT
理事(編集担当)	乾 健太郎	東北大
理事(編集担当)	荻野 綱男	日大
理事(事業担当)	佐藤 理史	名古屋大
理事(事業担当)	黒橋 禎夫	京大
理事(事業/渉外担当)	颯々野 学	Yahoo!
理事(渉外担当)	奥村 学	東工大
理事(渉外担当)	柏野 和佳子	国語研
理事(財務担当)	田口 大悟	NEC
理事(総務担当)	村上 仁一	鳥取大
理事(総務担当)	宇津呂 武仁	筑波大
		(以上 13 名)
監事	樽松 明	早大
監事	斉藤 博昭	慶大
		(以上 2 名)
顧問	長尾 眞	国立国会図書館
顧問	飯田 仁	東京工科大
顧問	辻井 潤一	東大
顧問	島津 明	北陸先端大
顧問	中川 裕志	東大
顧問	石崎 俊	慶大
		(以上 6 名)

会誌編集委員会 2010-2011 年度		
総編集長	中岩 浩巳	NTT
編集委員長	隅田 英一郎	NICT